

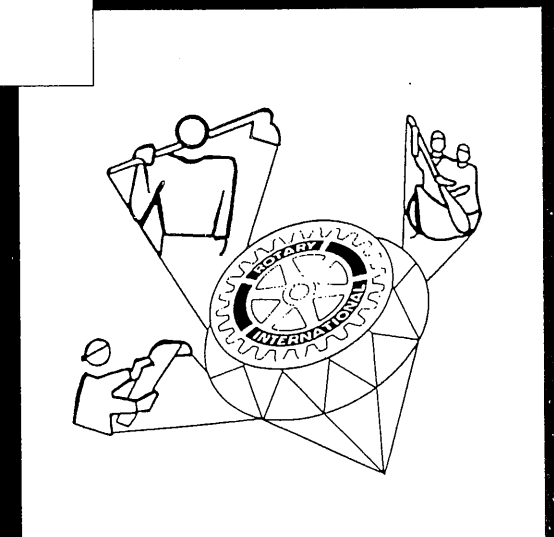
諮問委員 衣笠秀夫 監修

栃木—茨城

職業奉仕事例の検討

(1989~1990)

第255地区委員 職業奉仕委員会 石川 誠二郎



栃木——茨城 職業奉仕事例の検討
(1989——1990)

第255地区委員、職業奉仕 石川 誠二郎

はじめに

午前中の行事に引き続きまして大変お疲れとは存じますが、本日の午後の部の職業奉仕活動の個々の事例の検討につきましてお時間を頂きました岩舟 RCの石川でございます。約1時間でございますがご辛抱願いたいと思います。

さて、職業奉仕に限らず誰もが経験することではありますが、その年のはじめに各委員会の諸計画や年間プログラムの作成時に思うことは、各自の作成した計画やプログラムが果たして客観的に他のクラブと比較してその中庸に行くものであるか、又万人が納得の行くものであるか等について一抹の不安といささかの困惑の経験をお持ちでありましょう。私はこの問題について毎年年度はじめに共通に思うことは、まず現況報告書の諸活動の立案、特に職業奉仕に関しての計画についての実践と要領に明解さが次々、頗る曖昧模糊の感なきにしもあらずというところでしょう。又多くの先輩ロータリアンの書かれた文献の中にもこれに対する納得の行く正解がえられない。この原因を考えてみると、これは各クラブの奉仕活動事例についての具体的な発表や研究事例の検討、又他クラブ相互の発表事例検討会・イベントについて数多くの事例の突っ込んだ研究討議がなされないことと、本人自身が職業奉仕自身でありわが身と一体構造が原因ではないでしょうか。

そこで、此の問題を解決すべく諮問委員の衣笠先生の御指導のもとに、栃木——茨城の各クラブの職業奉仕の事例の総てについて個々に検討し統計的に分類し、データ処理作業により職業奉仕活動の全貌と傾向の概略を展望し、初心者いづれにも平易に理解でき応用自在の手書き書を立案計画し統計的根拠に基づき此の計画をいたしました。初心者からベテラン迄御助言賜りたく敢えてこの機会にご報告させていただきます。



◦職業奉仕一般について

1989～1990年度におけるRI理事会の声明文につきましては皆様のご存知のごとく、S-1に示すごとく職業奉仕活動の心の高い水準の高揚について道徳的水準のこと、誠実であること、忠実であること、公正であることとあらゆる職業の社会的価値についての認識と自覚、又各々の社会奉仕活動は現時点の社会のNeedsを全うするものでなければならぬというものであります。

職業奉仕に関する声明

(1987～1988年度のRI理事会)

1. 職業上の道徳的水準の高揚

誠実 忠実 公正

2. 総ての職業の社会的価値の認識

3. 社会問題やNeedsに役立つ

S-1

◦職業宣言のこと

RI理事会の声明の次に1989年の規程審議会では、8項目についての職業宣言が出されました。いま此処で申し上げるまでもなくS-2に示すごとく、第一は職業は奉仕の機会であることの理解、第二は職業は須らく心の高い水準の倫理、法律に触れない道徳的でなければならないというものです。第三は職業はロータリーに共通の理念である品位と倫理に反することなく、第四は社会に公正であり、第五は名誉と敬意の心がなければならず、第六は技術の教育と質の向上を目指し、第七は広報は公正に、第八に会員相互感の独占と公平な対社会姿勢を強調しているものである。

職業宣言

(1989年度 規程審議会)

1. 職業は奉仕の機会なり
2. 職業は 倫理 法律 道徳 に忠実なれ
3. 職業は 品位 倫理 に全力を
4. 広く社会に公正なれ
5. 総ての業務に名誉と敬意を
6. 職業上の技術の青少年への教育と質の向上
7. 広告の正直専一
8. 事業と専門職業務の会員間の便宜と特典の禁止

S-2

◦今後の職業奉仕活動の問題点

既にご存知のように、会員の皆さんの会社でも外国籍労働者の問題と産業構造と変遷について種々問題を抱えておられることと思います。私も産業医として6～7個所の会社の外国籍労働者に関する問題について担当管理者と目新しい問題について協議しております。又大会社の地方分散、ないし進出については誠にめまぐるしい状況であります。特に職業分類上における大きな増強の財源であり、RCの該当地区の責任者の入会(増強)に特徴づけられます。又一方、これと並行して問題になるのが国の福祉政策～国・地方自治団体の社会福祉活動であり、この問題はいかにしてロータリーのこれからの諸団体にリーダーシップをとるかが今後我々に課せられた大きな課題でありましょう。

職業奉仕活動

1. 外国籍労働者に対する職業奉仕活動
2. 労働団体の責任者の職業分類
3. 雇用 労使に関する管理担当者との交流
4. 国,地方自治団体とロータリーの指導的役割

S-3

○その他の職業奉仕

最近とみに強調されるものが、青少年の職業奉仕であります。青少年についての基本的問題は職業指導ないし職業指導の問題だと思います。すなわち Vocational Guidance であります。S-4 に示すように最も大切なものは学校教育における青少年職業指導であります。新学習指導要領によりますとS-5 をご覧下さい。義務教育～中学校の1年生～2年生～3年生と知的・身体的発達によりそれぞれの的確な職業指導がなされます。基本的にはまず家庭の問題～つまり両親の職業を基本にした職業選択、又それを踏まえての学校における職業指導の実践、家庭と学校と実際の社会人としての職業体験学習・・・いずれもこのどこにおいてもロータリーの専門的職業選択～に多くの接点を見いだすことが出来ます。特に体験学習における専門職ロータリアンの積極的活動の分野でもあります。適当なアドバイザーとして学校のカリキュラムにもその講演会等が組まれております。これらの指導要領を見ると新しい時代の職業選択に次のような基準を設けております。その一つはまず収入と豊かな生活ということが真っ先に掲げられており、戦前の大義名分から一変して物質的豊かさを大一義にし、次に社会的名声と社会的高い地位を掲げ、三番目にロータリーと共通の目標である人のためになる社会的に貢献できるすばらしい職業ということになっておるようです。その次に生活の安定と喜びとあり、この問題はロータリーにおいては決議23-34の第一項目に述べられております。最後に最も決定的な要素の個性と能力の問題であります。いづれにしましても職業内容については20世紀から21世紀に向かつてのめまぐるしいほどの発展にロータリーの対応の姿勢が問われる時代にあることを忘れてはならない。その他の職業指導については現在存続する職業教育機関、会社においては自社内の研究機関、養成機関、或いは現在の如きグローバル企業の研究組織などはロータリー自ら体験しておることでしょう。

その他の職業奉仕

青少年職業指導

- 1) 学校教育における職業指導
- 2) 一般社会の職業教育機関
- 3) 会社 大学の研究教育機関
- 4) 外国の研究機関

S-4

職業指導と進路指導

(文部省新学習指導要領)

1. 将来の希望と進路 (家庭, 学校, 社会の体験学習)
2. 進路の計画
3. 職業選択の基準
 - ア, 収入と豊かな生活
 - イ, 社会的名声と地位
 - ウ, 人のためになる
 - エ, 生活の安定と喜び
 - オ, 個性と能力
4. 職業の内容と特色と変遷 (21世紀)
5. 適性と能力

1. 学力. 2. 健康 3. 職業適性検査 4. 家族相談 S-5

○効果的奉仕活動関係式の提示

ロータリーにおいては、社会奉仕活動と相俟って職業奉仕活動においても共通の問題はいかに効果的奉仕活動を行うか、又反面どの様な計画が効果的奉仕活動なるものか、これを更にロータリー理論に照らしてその目的達成の程度についてを判別することは非常に困難である。むしろ曖昧模糊としており結論は多種多様にまたがることでありましょう。そこで私はロータリーオリエンテーションの時に屢々S-6に示すような関係式をもってロータリー理論を全うすることを考え説明したところ、多くの賛同者を得ました。それは次のような関係式です。すなわち Effective Service Activity = ESA と決めてみました。N = Needs を示し、この大きさにより達成された効果は更に大きくなり、その奉仕活動に参加されたロータリアンの人数によりより大きな奉仕活動が出来るというものです。又このイベントに際し他クラブが共に協調して多数参加をし奉仕の輪が拡大し国際的になるわけです。更に Economy にも余裕があれば、更に奉仕活動の効果は大きいことになると思います。

しかしながらこれに反対の効果の要素を示す要素があります。それは長期に及ぶ力量を超えたイベントで長期年余に及ぶ計画で、原則的に一年でおわる事がないものであります。又単純な Hard 性のもので相手側の諸条件を想定しないもの、長期の維持管理に問題の残るものが概ね此の類になります。従って期間と Hard は此の関係式では分母になります。従って此の要素が大きければ大きいほど奉仕活動の効果は小さくなります。更に最も重要な要素はイベントの Soft 性で此の要素は奉仕活動の最も決定的な要素でロータリー活動の本質でもあります。従って関係式では以上式のすべての積になります。すなわち ESA は内容を検討した際にどの程度 Soft 性があるかの問題に比例すると考えました。諸々のイベントの判別に参考になればと思います。

効果的奉仕活動関係式

$$E S A = \frac{N + M s + C s + E}{Y + H} \times S$$

E S A = 効果的奉仕活動

N = Needs

M s = 参加人員数

C s = 他のクラブ協調

E = クラブの財政力

Y = 期間 (年)

H = H a r d

S = S o f t

S-6

。大規模クラブと小規模クラブの内容比較と奉仕活動への影響

大規模クラブと小規模クラブにはそれぞれ特有の相違点があり、計画されたイベントにも若干の特異性があるかも知れないという想定のもとにその内容について検討をしますと、S-7に示すごとくになります。大規模クラブに選んだクラブの会員数は155名で小クラブに選んだクラブは38名のクラブで岩舟クラブです。

此の中で特に奉仕計画ないしイベントにかなりの影響をもたらすと考えられる Factor を選び申し上げますと、会員の構成メンバーは30歳～50歳にピークを示し活動戦力の中心を共通に示唆しており、70歳～80歳の大先輩は当然大規模クラブに1～2%を示しクラブの歴史と地区に対する重要な地位を示唆している。従って大規模クラブ38年の歴史に示すごとく地区の役員数は89名の多数にのぼり年間を通じて平均2.34の役員を出している。一方小規模クラブにおいては7名で年間平均は0.7人である。しかしながら4大奉仕部門における構成メンバーは職業奉仕部門ではそれぞれ5名程度に留まるに、社会～国際奉仕にいたっては19名と18名に比して5名と6名の約三倍の構成である。その他出席率については小クラブにその可能性が高いのは当然のことで個人出席率において100%は31.7%に比して小クラブの26人の68.4%は全体の出席率に強い相関を有している。クラブの名誉における P・H・F: 42名の人数割の0.278に対して小クラブにおいては8.0名の人数割の0.21 という数字は明らかな有意差を認められなかった。次に奉仕活動予算値を比較すると大規模

クラブの社会奉仕: 50,000に対し小クラブ: 400,000で職業奉仕の50,000に対し小クラブの120,000という計上予算はそのクラブの奉仕活動方針と予算の計画上にそれぞれの計画があるためでしょう。その他国際～親睦等には特に目立つ相違点はないが、Smile Boxにいたっては4,209,223円(27,875.65円)に対して小クラブでは1,600,000円(42,105.26円)と一人当りのSmile Boxは小クラブに好成績を示している。その他の会員の動きは公的な理由による不可抗力的な変動に対し、小クラブにおいては私的な理由による変動が目立つ。

このように大小クラブをその中の項目別に比較検討してみると以上のごとく様々な点に特有の相違点を見ることが出来る。これらの諸条件が奉仕活動にどの様に影響し各クラブの進みゆく形態に影響を及ぼすであろうか? 又奉仕活動に大クラブ小クラブの特徴とも言うべきものがあるか? 次に述べる第255地区のイベントの相互比較の参考にされたいと思います。

大規模 R.C と 岩舟 R.C の 相互比較

1989-1990. 大規模 R.C(会員数=151名)	岩舟 R.C(会員数=38名)
会員数 155名(名誉会員:4)	38名(名誉会員: 1)
創立会員 24名	30名
会員の年齢 30歳:2.6%	5.2%
50才:32.5%	33.3%
70歳:9.3%	0%
80歳:2.6%	0%
構成人数 クラブ奉仕: 79名(52.3%)	34 (89.4%)
職業奉仕: 5名(3.3%)	5 (13%)
社会奉仕: 19名(12%)	5 (13.1%)
国際奉仕: 18名(35.2%)	6 (15%)
地区役委員 :89名(89.0÷38=2.34人)(38年間)	7 (7÷10=0.7人)
出席率の最高:95.07%~最低:65%(38年間)	最高:97.48% 最低:92.79%(10年間)
100%年間出席率:0(0.0%~年間)(0.0%~人数割)	4(0.2%~年間)(10.5%~人数割)
個人出席率:100%=48人(31.7%)	26人(68.4%)
最年長小者:87.3歳-31.6歳	69.0~36.0歳
P・H・F: 42.0(1.10人~年間)(0.278人~人数割)	8.0(0.8人~年間)(0.21~人数割)
米山功労者:11(0.28%~年間)(0.6%~人数割)	4(0.4%~年間)(10.5%~人数割)
会費+入会金:90,000+100,000円	140,000+50,000円
100%月出席率:0(0.0%~年間)(0.0%~人数割)	4(0.2%~年間)(10.5%~人数割)
収支予算:社会奉仕:50,000(331円)(人数割)	400,000(11526.30円)
職業奉仕:50,000(331.円)	120,000(3157.89円)
国際奉仕:300,000(1986.75円)	450,000(118452.10円)
親睦活動:4,500,000(29801.3円)	1600,000(42105.2円)
食費:8,800,000(58278.1円)	2,000,000(52631.57円)
Smile Box: 4,209,223(27875.64円)	1,600,000(42105.26円)
会員増強と退会:入会-15名, 退会-15名(年間) (公:15=15% 私:0%)	入会-2名 退会-4名 (公:2=5.2% 私:2=5.2%)
*Rotary財団寄付:111852.80\$(2943.49\$年割)	33273.18(3327.31\$)
*米山奨学寄付:11926.350(341.03円~年割)	3780.603(378.06円)

以上

Jan, 31, 1990. 岩舟 R.C 石川誠二郎 S-7

・職業奉仕事例検討と各クラブの大小規模との相互関係(栃木—茨城)

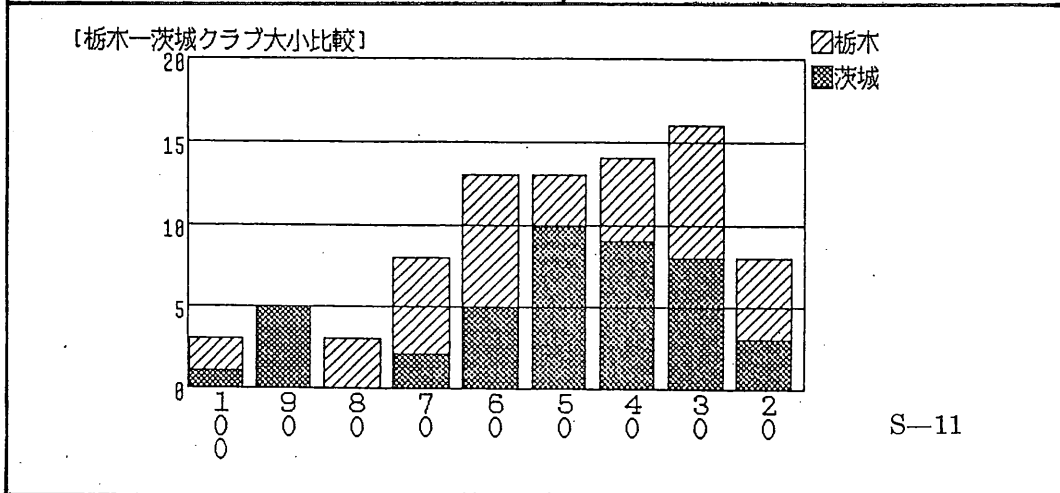
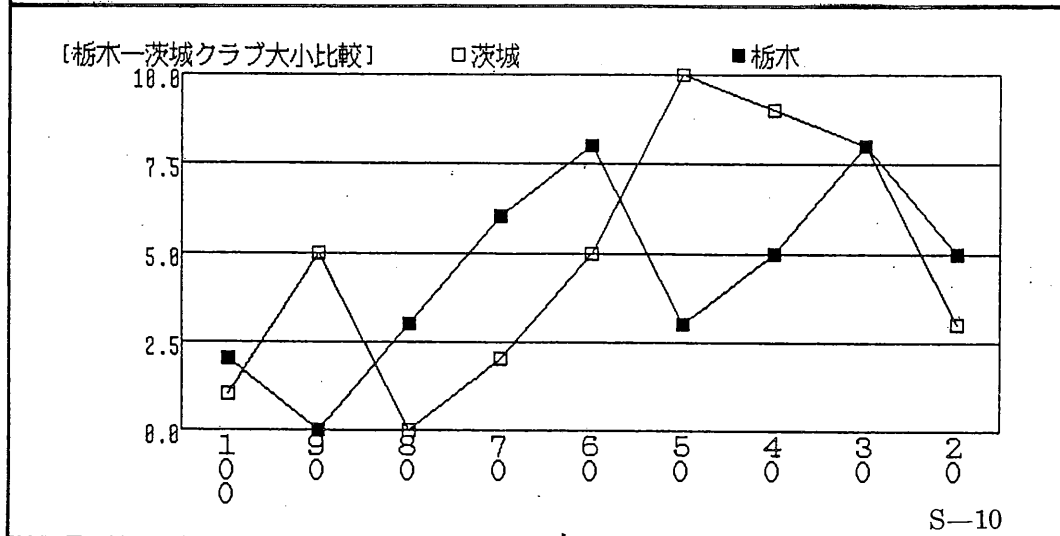
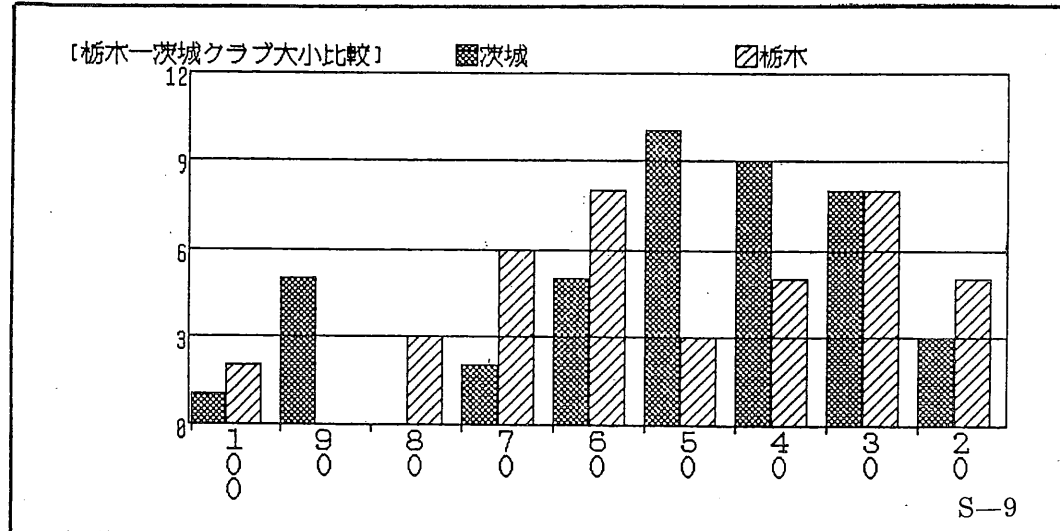
栃木—茨城クラブ総数83クラブの職業奉仕活動の実態の調査に触れる前にまず両県の大小クラブを調査しその分布をもとに各クラブのイベントを分析してみました。S-8をご覧ください。此の表からクラブの規模別に茨城—栃木の各クラブ数を示しますと100名前後の大クラブは茨城に1:クラブ 栃木に2:クラブありまして全体に計:3クラブあります。このようにして各クラブ数の分布は50名近いクラブに成りますと全体的にその数有意に増加するのは茨城のクラブで栃木のクラブに於いては極端なクラブの大きさに関する傾向がない。しかしながら此処で茨城—栃木のクラブ数の合計を見ると右の数字に示すごとく一定の関係を示すがごとくクラブの規模(クラブ構成人数)により60名~30名にピークを示す一峰性の放物線を思わせる数に成り統計的に好都合である。

これをデータ処理により棒グラフに変換してみるとS-9に示します。両斜線(交差線)—黒の線によるものが茨城、白の斜線が栃木のクラブ数で茨城のクラブは概ね一峰性を示し、一方白の斜線の栃木のクラブでは明らかな二峰性で、更に折線グラフにしても同様にS-10に示す。所がこれを更に茨城—栃木クラブの重ねあわせの合成クラブを試みますとS-11に示すような典型的なしかも統計にかかりよい一峰制の好都合な関係をしめす棒グラフになり統計上よい結果を得ることが予想され実際にもその通りであった。

[栃木—茨城クラブ大小比較]

クラス	茨城	栃木	合計
100	1	2	3
90	5	0	5
80	0	3	3
70	2	6	8
60	5	8	13
50	10	3	13
40	9	5	14
30	8	8	16
20	3	5	8
合計	43	40	83

S-8



○職業奉仕事例の検討（茨城県）1989～1990年度

職業奉仕とはどんなことか？ の質問に即答が難しいのはおそらくこれには形、空間がなく視覚触覚にて捕らえにくいことも特徴でしょう。しかし事例の具体例を列挙するとその答は簡単に認識されるでしょう。S-12をご覧ください。

各クラブのイベント別の頻度を奉仕活動の多い順に集計してみると此のスライドの様になります。又各イベントは頻度の多い順縦に並べ、且つデーター処理しやすい様に各イベントの頭にアルファベット記号をつけました。こうして頻度の多い順に羅列してみるとこのようになります。

A:職場見学-37(23.27%) B:卓話-29(18.24%) C:四つのテスト-24(15.09%)
 D:表彰-24(15.09%) E:就職情報-10(6.29%)の順に高い頻度を示し、各クラブにおけるイベントを実行する時に比較的取組みやすきものと言えるかも知れない。その他の事例では、F:会員の事例研修会 G:社員デスクッション H:会員の職員研修会 I:小中学校職業研修会 J:炉辺会合 K:他クラブとの合同研修 L:職案との合同研修 M:他の企業との合同研修 O:パンフレットの作成 P:他の職場例会 Q:その他..... となってい

項目	クラブ数	割合	順位
A 職場見学	37クラブ	23.27%	1 順位
B 卓話	29	18.24	2
C 四つのテスト	24	15.09	3
D 表彰	24	15.09	4
E 就職情報	10	6.29	5
F 会員研修会(事例)	7	4.40	6
G 社員デスクッション	4	2.52	7
H 会員職員研修会	4	2.52	8
I 小中学校職業研修	4	2.52	9
J 炉辺会合	4	2.52	10
K 他クラブ合同研修	3	1.89	11
L 職安との合同研修	2	1.25	12
M 小委員会の設置	2	1.25	13
N 他企業との合同研修	2	1.25	14
O パンフレット作成	2	1.25	15
P 他職場例会	1	0.62	16
Q その他	0	0.00	17
159			S-12

ます。ここで茨城クラブの特徴的なものに少し触れてみますと頻度の高い4項目と次の項目の会員研修会以下の事例数をよくご覧下さい。減少率が極めてなだらかで全17項目を通じて平均的減少傾向ないしマイナスの比例曲線を示しておることにご注目下さい。又此处で重要なことは、多くのクラブで行われているイベント数が高いということと優れたイベントとの関係ですが、採用されたクラブ数が多い少ないが理想優劣に直接関係がなく、これはクラブの内部事情や地域特異性と相俟って選択の多種多様化を示唆するものであろう。又頻度の少なかったイベントは前述の如くそれなりの奉仕活動の別の意義を有するもので事情が許すならば少数例の検討として十分に意味があります。

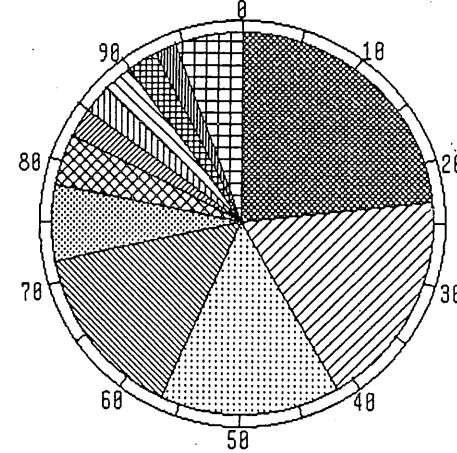
それでは次にデータ処理をするためにS-13のように記号とクラブ数とに順位をつかまして更に円グラフに展開してみますと、S-14に示すようにABCDの順になりまして頻度の多いイベント A:職場見学 B:卓話 C:四つのテスト D:表彰の順に一見してその全貌がおわかりかと思えます。すなわち、この5項目が全体の72.49%以上を占めております。更に棒グラフにしてみますとS-15のようになります。10% lineにて切りますとABCDこの4つの棒グラフに成ります。しかしながら再三述べて参りましたが10%以下の此の棒グラフのE・F・G・H・I・J・K・L・M・N・O・Pの12項目につきましては各クラブの諸般の事情により再検討されまして採択されては如何でしょうか。又同様に折線グラフに展開しましてもS-16にご覧のように四項目までは28%以上が此の部分になります。

[職業奉仕事例検討(茨城県) 89-90]

記号	クラブ数	順位
A	37	1
B	29	2
C	24	3
D	24	4
E	10	5
F	7	6
G	4	7
H	4	8
I	4	9
J	4	10
K	3	11
L	2	12
M	2	13
N	2	14
O	2	15
P	1	
合計	159	120

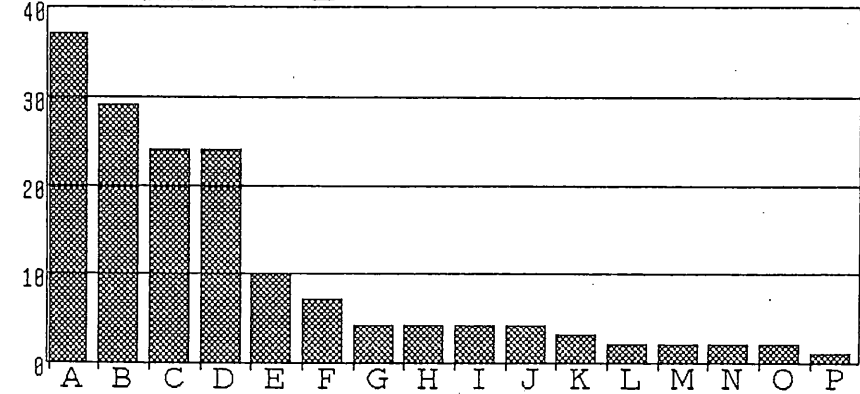
S-13

[職業奉仕事例検討(茨城県) 89-90]

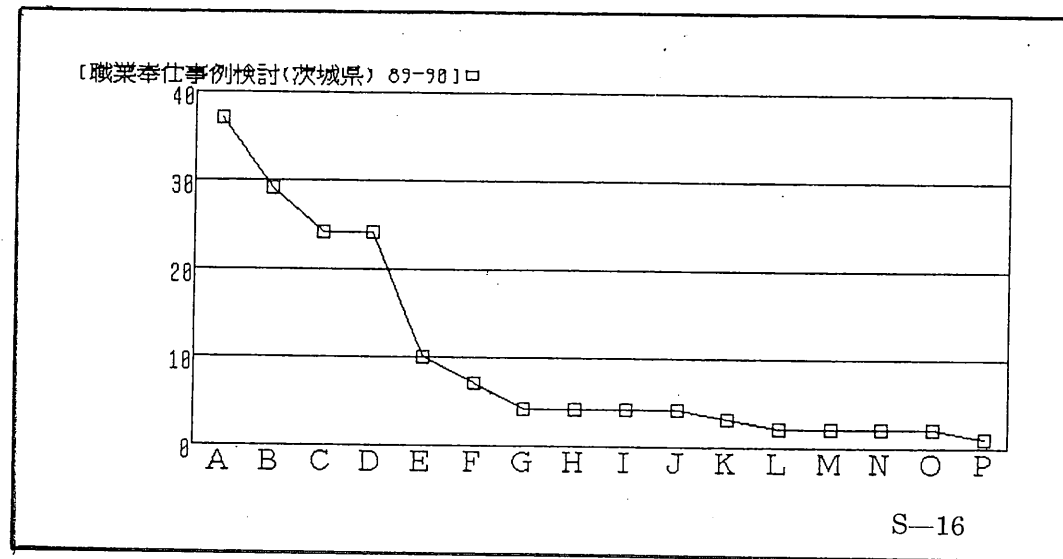


S-14

[職業奉仕事例検討(茨城県) 89-90]



S-15



○職業奉仕事例の検討(栃木県) 1989~1990年度

栃木県のクラブ数は1989年5月現在40クラブで茨城クラブより3クラブ少ない。データの取りかたは前回の茨城クラブと同様イベント別に集計しそのイベントの種目別に分類しその頻度を集計しました。S-17をご覧ください。左の上から実際に採択し実行されたイベントを頻度の高い順に列挙しますと、此の表のごとく上から順に職場見学:32クラブ 四つのテストの利用:30 表彰:25 卓話:24 会員の職業指導:23.....となります。此の5項目についてはイベント数:134クラブで全体の86.45%を占めており、第1位より第5位まで圧倒的多数のクラブが此の種のイベントを行っていることがわかります。茨城クラブを振り返ってみますと極めて高い選択の相関が見られ略々同様なイベントであることを示しました。更に少ないイベントとして職業安定所の利用(職業指導)、社会人による研修会、パンフレットの配布、社員ディスカッション、アンケート調査、自分のクラブ内の社会奉仕委員会との協調活動、従業員との合同研修会、就職情報、従業員のレクリエーションとの関連にて行う職業奉仕活動、炉辺会合となります。此処で再三申し上げたように採択頻度の大小により職業奉仕活動の優劣、効果、適不適を論ずることは出来ません。前回の茨城クラブと同様クラブの種々の事情、地域とクラブのマッチング等の諸条件によるわけであり少数クラブの検討として重要であります。更に前回に引き続きましてデータ処理上S-18に示す記号と頻度のクラブ数と順位をきめて諸々のクラブに展開してみますとS-19になります。茨城の場合と異なりまして、A:職場見学 B:四つのテスト C:表彰 D:卓話 E:会員の職業指導に記号をつけたので茨城の場合と若干記号と番号が異なります。このように円グラフに示しますと最初の5項目と6項目以下の群に歴然と低い頻度とパーセンテージを示しました。

更に此のデータについて棒グラフに展開してみますと、S-20に示しますように A:職

場見学 B:四つのテスト C:表彰 D:卓話 E:会員の職業指導迄の頻度はいずれも20%以上の高いイベント数を示しておりますが、F:職安の職業指導以下はご覧の通り、2.58%以下に減少し極端に少なく此のパターンは茨城のパターンに比較して極端に対照的であります。特に10%以下にある F:職安の職業指導 G:社会人による研修会 H:パンフレットの配布 I:社員ディスカッション J:アンケート調査などはいずれも職業奉仕の基本的イベントであり例数に関係なく検討の余地があります。更に K:社会奉仕との協調活動 L:従業員の合同研修 M:就職情報 N:従業員のレクリエーション O:炉辺会合などは茨城クラブと同様優れたイベント性をもちつつ実践の機会が少ないのは再考の余地があるかと思われまます。

更に折線グラフに展開してみますとABCDE—イベントから急激に20%を切りF—イベントの2.58%への減少は茨城地区の漸減傾向~減衰線に比較して栃木地区の断続線がよくおわかりのことと思います。

項目	クラブ数	パーセンテージ	順位
A 職場見学	32	20.65%	1 順位
B 四つテスト	30	19.35	2
C 表彰	25	16.13	3.
D 卓話	24	15.48	4.
E 会員の職業指導	23	14.84	5
F 職安の職業指導	4	2.58	6.
G 社会人の研修会	4	2.58	7.
H パンフレット配布	4	2.58	8
I 社員ディスカッション	2	1.29	9
J アンケート調査	2	1.29	10
K 社会奉仕との協調	1	0.65	11
L 従業員合同研修	1	0.65	12
M 就職情報	1	0.65	13
N 従業員レクリエーション	1	0.65	14
O 炉辺会合	1	0.65	15

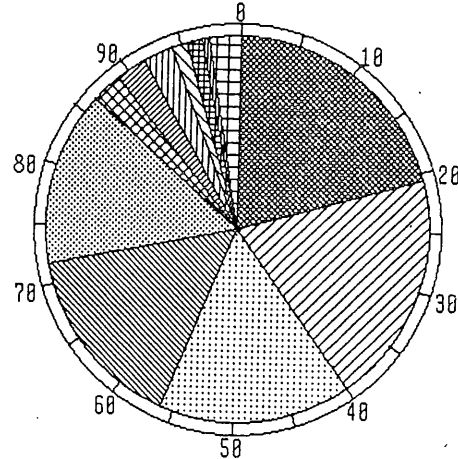
155

[職業奉仕事例検討(栃木県) 89-90]

記号	クラブ数	順位
A	32	1
B	30	2
C	25	3
D	24	4
E	23	5
F	4	6
G	4	7
H	4	8
I	2	9
J	2	10
K	1	11
L	1	12
M	1	13
N	1	14
O	1	15
合計	155	

S-18

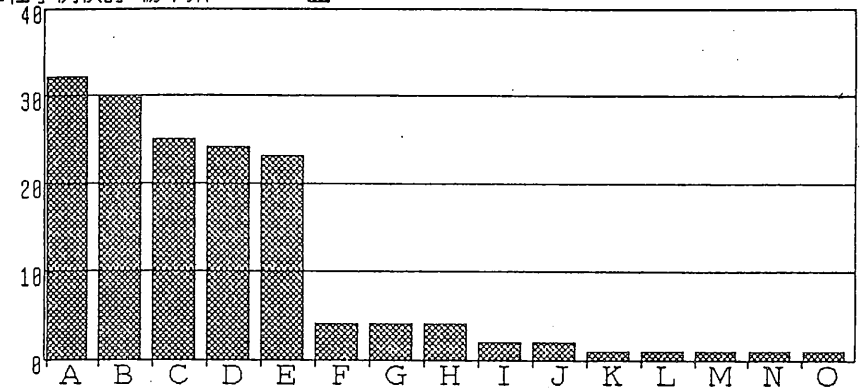
[職業奉仕事例検討(栃木県) 89-90]



S-19

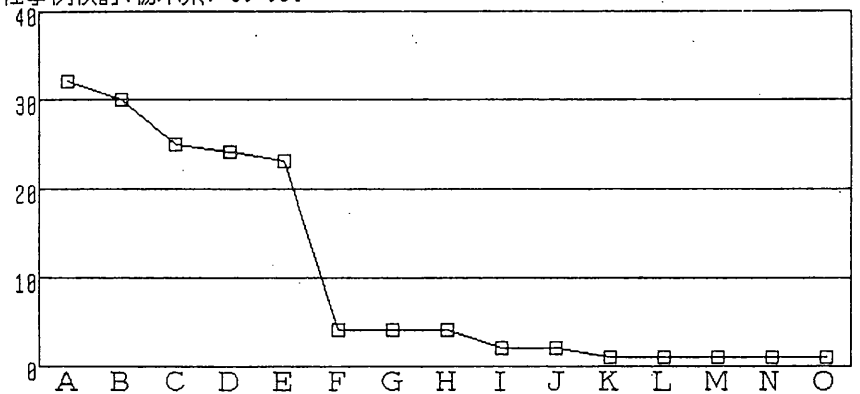
A	20.65 %	32
B	19.35 %	30
C	16.13 %	25
D	15.48 %	24
E	14.84 %	23
F	2.58 %	4
G	2.58 %	4
H	2.58 %	4
I	1.29 %	2
J	1.29 %	2
K	0.65 %	1
その他	2.58 %	4
合計		155

[職業奉仕事例検討(栃木県) 89-90]



S-20

[職業奉仕事例検討(栃木県) 89-90]



S-21

○ 栃木一茨城両者の職業奉仕活動事例頻度比較

前述のとおり茨城と栃木各クラブの職業奉仕イベントそれぞれの特徴について論じてきたが、更に今度は各イベントについて両者の対照——比較をしてみますとS-22のようになります。此の表は両県のイベントの性格と頻度の対照比較で比較的自然的減衰傾向を示した茨城県のイベントを軸にして、すなわち茨城側を優位指導型にして対照表を作りますと1.の項目では職場見学は茨城の37クラブの23.27%で全体のクラブ数から見た頻度(%)は茨城側に多く 2.卓話についても茨城の29クラブの18.24%と同様に茨城側に多い。

い。3. 四つのテストについては30クラブでその比率は19.35%と若干栃木県優位で、4. 表彰の部門では栃木の25クラブあり、其の比率は16.13%とやや栃木に多い。5. 就職情報においては茨城の10クラブで、その比率は6.29%と断然茨城側に多い。次の7. の社員討議 8. 会員職員研究会 9. 小中学校職業研修 10. 炉辺会合の四つのイベントについてはいずれも茨城側に各4クラブづつあり、全体的に見て茨城側においては各イベント数は御覽のとおり全体に平均したイベントの選択傾向を示し、栃木県側においては 3. 4. 6. と多く認められるが茨城県側との相対的比較に於いては有意の差とは結論出来ない。

栃木 茨城奉仕活動事例頻度比較				
(1989-1990年度)				
	茨城県		栃木県	
1. 職場見学	37クラブ	23.27%	32クラブ	20.65%
2. 卓話	29	18.24%	24	15.48%
3. 四つのテスト	24	15.09%	30	19.35%
4. 表彰	24	15.09%	25	16.13%
5. 就職情報	10	6.29%	1	0.65%
6. 会員研修会	7	4.40%	23	14.84%
7. 社員討議	4	2.52%	2	1.29%
8. 会員職員研修会	4	2.52%	1	0.65%
9. 小中学校職業研修	4	2.52%	0	0
10. 炉辺会合	4	2.52%	1	0.65%

S-22

諸活動の大小クラブ別比較

前述したとおり、大小クラブの特徴については151名の大クラブと38名の小クラブ(岩舟クラブ)につきまして其のクラブ内の諸々の要素について検討を加えそれなりの相違点を指摘して参りました。またS-8に示すように栃木-茨城のクラブ内の構成人数の大小について検討して参りました。そのことを思い起こしながら次の事柄について考えてみましょう。此の表は栃木-茨城各クラブをまとめて一クラブとして調査の対照にしました。このことはS-11について既に詳細につき説明がしてあります。すなわち大クラブと小クラブの分布は茨城県においては一峰性となり、栃木県は二峰性の傾向がありクラブの構成人数とクラブ数の関係に問題があり此の両者合併することによって統計的数字の信頼値が高くなると考えられます。其の意味において茨城-栃木の併せ総数から100前後の大規模クラブ:10クラブ抽出、一方小クラブとしては最小人数のクラブより上に10クラブ抽出し其のイベントの内容を詳細に検討しました。此の結果はS-23に示します。イベントの種類は向かって左側、続いて其の右側に示す数字は10クラブが選択したイベントの数を示します。その数の多い順から大クラブにおいては職場訪問:9 卓話:9 四つのテスト:8 職場研修会:5 表彰:4 事例研究:3 職業奉仕月間:2 アンケート:1 生涯学習:1 小委員会の設立:1 となりまして、これに対しまして小規模クラブの選んだイベントにつきまして同様に検討しましたところご覧のとおり大規模クラブの頻度は直線の負の比例グラフ

諸活動の大小クラブ別比較			
大クラブ:10 (100名前後)		小クラブ:10 (30名前後)	
職場訪問	9	職場訪問	10
卓話	9	表彰	7
四つのテスト	8	職場紹介	6
職業研修会	5	卓話	5
表彰	4	職業情報	1
事例研究	3	職業月間	1
職業奉仕月間	2	炉辺会合	1
アンケート	1	職業研修会	1
生涯学習	1	事例研究	1
小委員会設立	1	他の団体に参加	1

S-23

を示すのと対照に小クラブにおいては職場訪問:10から卓話:5迄は直線的減衰傾向にあるが、職業情報以下の項目については極端にその数が減少し大クラブにおけるが如き多くの事例に満遍なく行き渡るが如き傾向が少なく、少数構成のクラブにおける職業奉仕活動は少数種類に集中するが如き傾向にあると思われる。このことはおそらく偶然の事実ではなく大クラブはそれぞれのクラブ内の諸事上にもとづきイベントの傾向を示し、これに対応する地域特性が互いに折衝してイベントが決定され、且つ奉仕活動として遂行されてきたものと思われる。

栃木 茨城奉仕活動事例頻度比較

(1989—1990年度)

	茨城県		栃木県	
	クラブ数	割合	クラブ数	割合
1. 職場見学	37クラブ	23.27%	32クラブ	20.65%
2. 卓話	29	18.24%	24	15.48%
3. 四つのテスト	24	15.09%	30	19.35%
4. 表彰	24	15.09%	25	16.13%
5. 就職情報	10	6.29%	1	0.65%
6. 会員研修会	7	4.40%	23	14.84%
7. 社員討議	4	2.52%	2	1.29%
8. 会員職員研修会	4	2.52%	1	0.65%
9. 小中学校職業研修	4	2.52%	0	0
10. 炉辺会合	4	2.52%	1	0.65%

S-24

○総括的な傾向とまとめ

1. 職業奉仕活動計画

茨城県のクラブはイベントの数が比較的他種目に及ぶ

栃木県のクラブは比較的少種目に集中している。

2. 大小規模によるイベントの比較

大クラブにおいては他種目分散傾向を示す。

小クラブにおいては小種目に集中傾向がある。

3. 選択頻度の少ないイベントの検討の重要性

4. 栃木—茨城各クラブ総合した場合の傾向はロータリー職業奉仕概ね良好。

以上長時間にわたり栃木—茨城1989～1990年度の職業奉仕事例につきましての統計的資料に基づきまして種々の面から検討いたしました。此のデータより各人各様のご判断が出来ることとあります。今後の職業奉仕活動上に寄与する所があれば誠に光栄のいたりでございます。御静聴誠に有難うございました。

最後にこの度の発表に終始御指導御協力御高閲を賜りました以下の皆様方に深く感謝の意を捧げます。

- 地区諮問委員 衣笠 秀 夫 殿
 - 第255地区ガバナー 石原 敬 士 殿
 - ガバナー事務所職員各位殿
 - 第255地区 83クラブ 各 位 殿
- 現況報告書(1989～1990)

以 上

以上の原稿は平成2年5月20日、宇都宮文化センターにおける第255地区協議会職業奉仕部門にて発表したものである。